

林業普及 現地情報
2014-18号(通算243号)
平成27年1月15日
大船渡農林振興センター
記述者 橋本吉弘

地域材利用シンポジウムの開催

地域材利用の課題解決と三陸沿岸の林業・木材産業の本格復興を実現する糸口を探るため、標記シンポジウムを開催した事例を報告します。

1 開催概要

平成26年10月27日、住田町役場を会場として、林業・木材産業や建築設計事務所、大工・工務店、行政機関等の関係者77名が参加しました。

(1) 基調講演

「地域材利用の課題と展望」
講師：大東建託(株)設計部
次長 加藤富美夫氏



基調講演(加藤次長)

国産材利用の課題として、「価格が高い・不安定な価格・不安定な供給」という点を挙げ、自社の杉スタッド材や国産材マーク刻印等の取組を交えながら、山側に対して「長期にわたる安定した供給と市場に受け入れられる価格設定を期待する。」とのご講演を頂きました。

(2) パネルディスカッション

「三陸沿岸の林業・木材産業の本格復興に向けて」

コーディネーター：三陸中部森林管理署 署長 橋爪一彰氏



パネルディスカッション

(パネラー：左から加藤次長、多田町長、泉田専務、上田社長、高橋参事)

第一線にある5名のパネラーによる需要先の拡大や水平・垂直連携の推進等の提言を踏まえ、会場も交えた熱心な討議を頂きました。まとめとして、業界を取り巻く追い風を確実に捉え、林業・木材産業の本格復興に繋げていくことを誓い合いました。

2 おわりに

今後、品質・性能の確かな製品の安定供給や復興住宅への地域材利用の促進を図るため、川上から川下に至る関係者間の連携の促進や関連情報の提供、体制の整備など、課題解決や本格復興の実現に向けた取組を進めて参ります。